

# レポート

10/28~29

## 研修テーマ

10月28日 宮城県牡鹿郡女川町(みやぎけん おしかぐん おながわちょう)

○震災以降の移住・定住施策について  
道の駅おながわ

10月29日 宮城県黒川郡大郷町(みやぎけん くらかわぐん おおさとちょう)

○子どもの一時預かり事業について  
道の駅おおさと



## 宮城県女川町

服部 高志

2011年の東日本大震災で18メートルを超える津波が町を襲い、町の約9割が津波で流出する甚大な被害を受けた女川町ですが、現在は住宅や道路などのインフラ面の整備は完了し、にぎわいが戻ってきている。

行政視察を通して議員全員が感じたことは、行政が実施しているさまざまな施策の充実ぶり。とりわけ、子育て支援関連については、子どもの学力向上・学習意識向上を図り、子育て世帯の経済的負担軽減を目的とした学習塾代支援事業や検定試験の受験料の一部、または全部を補助する基礎学力充実支援事業補助金などが魅力的。また、本村において補助が薄いとされている高等学校等在学者を対象とした、通学のための定期券・下宿に要する費用の一部補助事業も素晴らしい。大人子どもにかかわらず、人材育成が必要との考えから、就労や能力向上のための資格を取得した15歳以上の方に、資格取得のための受験料・受講料・交通費・宿泊費・教材費を補助率5分の4(最大10万円)で実施しており、人づくりにかける施策がすごい。

民間企業の賃貸住宅建設補助は、3分の1を補助する制度で、女川町に民間企業が積極的に住宅建設し賃貸事業を展開する流れを積極的に作っており、本村では、いまだ取り組んだことのない事業。人口減少対策、特に子育て世帯を増やしていくことが急務な本村にとっては、コストの悪い村官住宅建設の選択肢は薄く、民間企業主体の住宅建設を促す手法は、早急に検討を進める必要があると感じた。今後、議員一丸となり、女川町の施策をさらに深堀し、飛鳥村に取り入れるべき施策を検討していく。

# 議員行政視察



女川町  
人口: 5,750人  
面積: 65.35km<sup>2</sup>  
(R7.9.30現在)

大郷町  
人口: 7,390人  
面積: 82.01km<sup>2</sup>  
(R7.9.30現在)



## 宮城県大郷町

中山 恵美賀

宮城県大郷町にて「子ども一時預かり事業」と「道の駅おおさと」の運営を研修してまいりました。大郷町は平成15年、町内に4園あった幼稚園を統合し、保育園、子育て支援センターも入った乳幼児総合教育施設を開園、令和2年には幼保連携型認定こども園として再編されています。

子ども一時預かり事業の経緯は、保護者の就労形態の多様化、核家族化、地域の子育て支援ニーズの増加に伴い「家庭で保育を受けることが一時的に難しい」場合の受け皿として「一時預かり」事業を実施。2日前までの予約が基本ですが、園の受け入れが整っていれば、緊急の受け入れもほぼ100%可能とのこと。きめ細かな支援をされていました。周りを木々に囲まれ、自然な地形を利用した広い園庭では、園児たちが素足で竹馬に乗り、遊び駆け回っていました。

続いて「道の駅おおさと」は、道の駅のドン・キホーテを指しているといわれる通り、大郷町の食材を使った特産品や料理以外にも、宮城県や全国各地のおいしい食材が所狭しと並んでいました。特産品のモロヘイヤを使った餃子、うどん、ソフトクリーム、焼き菓子が販売されていました。

道の駅に隣接する大郷町地域資源総合管理施設には、食品加工機材があり、テストキッチンの役割も担っていました。

道の駅おおさととは、町内のにぎわいや交流の拠点であり、町内の憩いの場、大郷町を発信できる場としての役割の場であり、平日にもかかわらず、にぎわっていました。

この研修で学んだ事を今後の村政に生かしていきます。